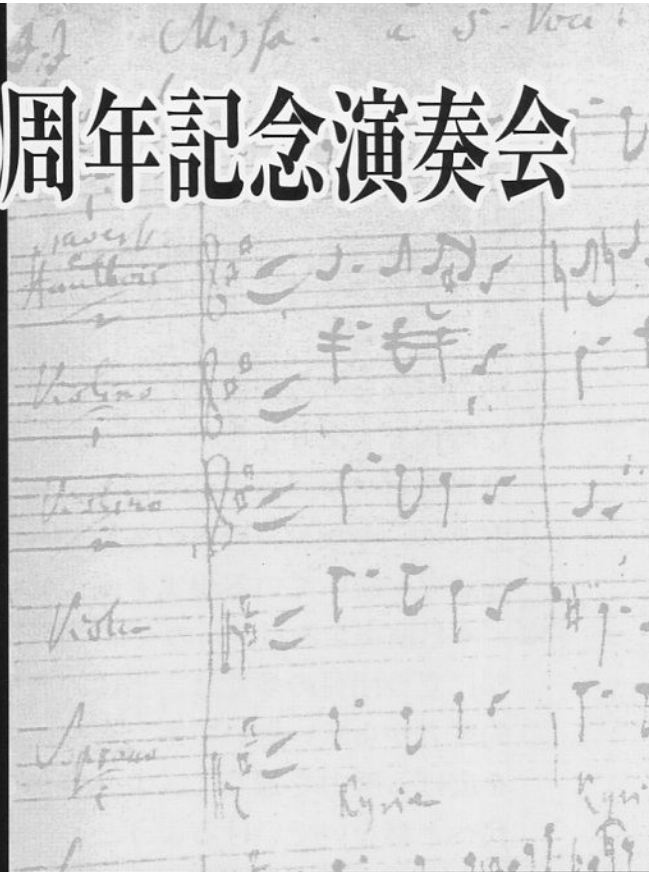


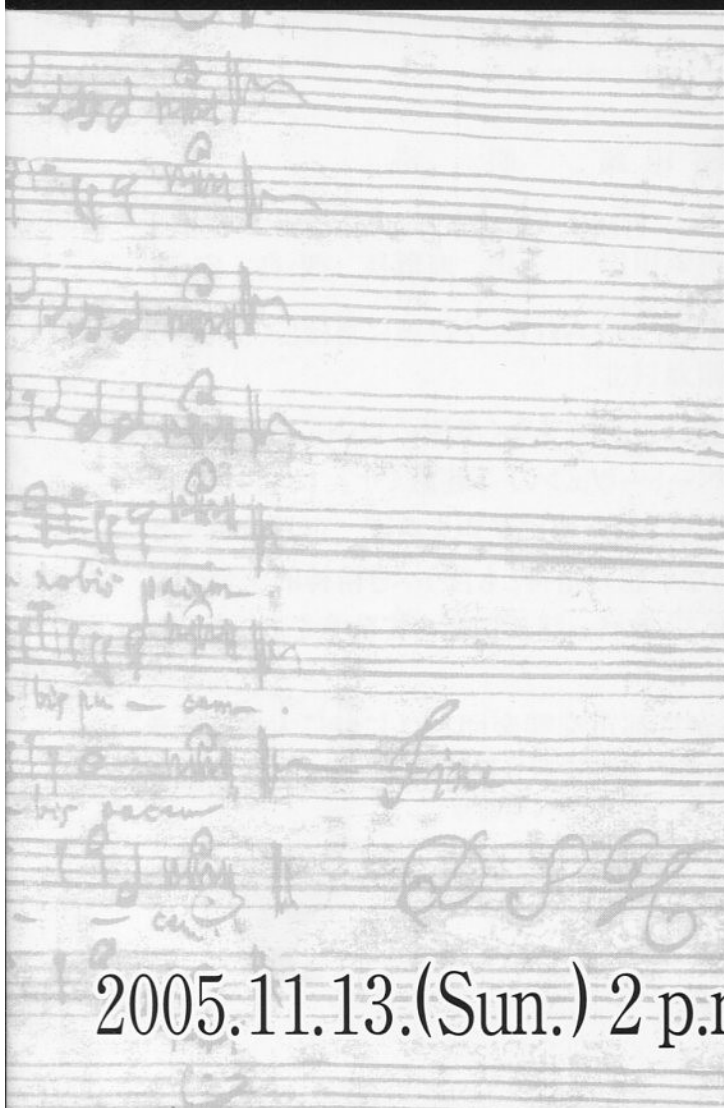
京都混声合唱団 創立80周年記念演奏会



**J.S. Bach**

**Mass in B minor**

[BWV232]



2005.11.13.(Sun.) 2 p.m. 京都コンサートホール

## ご挨拶

深秋の季節となりました。本日は、私たち京都混声合唱団創立80周年記念演奏会にお越しいただき、厚く御礼申しあげます。

私たちの先輩方は、「古都京都の地に合唱音楽の素晴らしさを広げて行きたい」という思いをもって、80年前に当団を結成しました。結成後の20年間において、前半は創生の活力がみなぎる期間でしたが、後半は年を追うごとに戦争の渦中に巻き込まれていった不幸な時代でもありました。それから更に60年の歳月が経ちました。今夏はこの京都の地で、世界合唱祭が開催されたほど、先輩方の思いはしっかりと根づき育っています。しかし一方では、今なお、世界の各地において、宗教や民族、あるいは政治的信条などによる様々な対立が続いている現実も直視せねばなりません。

本日演奏するバッハの〈ロ短調ミサ曲〉は、当団では初めてとりあげる大曲です。ステージに立つ団員の多くは、当団の歴史の中ではごく短い在籍でしかありませんが、私たちが先輩方から歌い継いできた合唱への情熱と、合唱を愛する人たちの輪を大切に、その輪を広げる努力を通じて、より豊かな社会を、より平和な世界をとという願いを、更に次の時代へと継いでいけるよう、心を込めて歌いたいと思います。

なお、本日の記念演奏会開催に当たり、共催、後援、助成などご支援を賜った皆様方をはじめ京都市交響楽団、独唱の諸先生方のお力添えに、この紙上を借りて厚く御礼申しあげる次第です。

平成17年11月13日

京都混声合唱団

## 祝辞

財団法人京都市音楽芸術文化振興財団  
理事長 西島 安則

1926年に結成された京都混声合唱団が、創立80周年を迎えられたことは誠に喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

一口に80年と申しましても、この間の社会情勢の変化は言うまでもなく激流の只中にありました。特筆すべきは、第二次大戦中に朝比奈隆指揮のもとベートーヴェンの「荘厳ミサ」に取り組みされたこと、戦後の荒廃の中にあっても文化の都・京都の再生のために一声をあげ、市民に勇気と希望を与えたことなどがあげられると思います。このような不屈の精神とも言うべき精神的土台を底力にして、現在も更なる飛躍を目指して研鑽を続けられるメンバー諸氏に改めて敬意を表したいと思います。

80年という長い歴史のなかで、ここ30年は、われらが京都市交響楽団とともに特に大曲に挑まれておりますが、今年は京都コンサートホール10周年記念に際して、大バッハの「ロ短調ミサ曲」をご披露されると伺いました。

当公演がまさに記念碑的な演奏となりますように、また今後のますますのご発展とご活躍を祈念して、ご挨拶に代えさせていただきます。

## J.S. バッハ 口短調ミサ曲 (BWV 232)

J.S.Bach "Mass in B minor"

## &lt;第 I 部&gt; Missa (ミサ)

1. Kyrie (主よ、憐れみ給え)

2. Gloria (栄光あれ)

————— 休 憩 —————

## &lt;第 II 部&gt; Symbolum Nicenum (ニケア信経)

## &lt;第 III 部&gt; Sanctus (聖なるかな)

## &lt;第 IV 部&gt; Osanna (オザンナ), Benedictus (祝され給え)

Osanna (オザンナ), Agnus Dei (神の子羊)

Dona nobis pacem (われらに平安をあたえた給え)

指 揮 蔵田裕行

独 唱 白川深雪 (Soprano) 蔵田みどり (Soprano)

福原寿美枝 (Mezzo Soprano / Alto)

北村敏則 (Tenor)

小玉 晃 (Bass) 津國直樹 (Bass)

合 唱 京都混声合唱団

管 弦 楽 京都市交響楽団

共 催： 京都の秋 音楽祭 実行委員会 / 京都市

京都コンサートホール (財団法人京都音楽芸術文化振興財団)

後 援： 財団法人京都市芸術文化協会 / 京都府合唱連盟

助 成： 芸術文化振興基金 / 財団法人 ロームミュージックファンデーション



曲目の構成と歌詞対訳

第 I 部 Missa

kyrie

- (1) [5部合唱]  
Kyrie eleison, 主よ、憐れみ給え
- (2) [ソプラノとメゾソプラノの二重唱] [白川・福原]  
Christe eleison, キリストよ、憐れみ給え
- (3) [4部合唱]  
Kyrie eleison, 主よ、憐れみ給え

Gloria

- (4) [5部合唱]  
Gloria in excelsis Deo. 天のいと高きところには神に栄光あれ。
- (5) [5部合唱と部分独唱] [蔵田・白川・福原・北村・小玉]  
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis. また、地には 善意の人に平和あれ。
- (6) [ソプラノ独唱] [白川]  
Laudamus te, benedicimus te, われらは 主を誉め、主を讃え、  
adoramus te, glorificamus te. 主を拝み、主を崇め奉る。
- (7) [4部合唱]  
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam. 主の大いなる栄光のゆえに、われらは、主に感謝し奉る。
- (8) [ソプラノとテノールの二重唱] [蔵田・北村]  
Domine Deus, Rex coelestis, 神なる主、天の王、  
Deus Pater omnipotens. 全能の父なる神よ。  
Domine Fili unigenite, 主なる御ひとり子、  
Jesu Christe altissime. いと高き イエス・キリスト、  
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris. 神なる主、神の子羊、父のみ子よ。
- (9) [4部合唱]  
Qui tollis peccata mundi, 世の罪を除き給う主よ、  
miserere nobis. われらを憐れみ給え  
Qui tollis peccata mundi, 世の罪を除き給う主よ、  
suscipe deprecationem nostram. われらの願いを聞き入れ給え。
- (10) [アルト独唱] [福原]  
Qui sedes ad dextram Patris, 父の右に座し給う主よ  
miserere nobis. われらを憐れみ給え。
- (11) [バス独唱] [小玉]  
Quoniam tu solus sanctus, tu solus 主のみ聖なり、主のみ王なり、  
Dominus, tu solus Altissimus, 主のみいと高き方、  
Jesu Christe. イエス・キリストよ。
- (12) [5部合唱]  
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris. 聖霊と共に、父なる神の栄光のうちに。  
Amen. アーメン

第 II 部 Symbolum Nicenum (Credo)

- (1) [5部合唱]  
Credo in unum Deum. 唯一なる神を われは信ず。
- (2) [4部合唱]  
Patrem omnipotentem, factorem coeli et 全能の父、天と地と、見ゆるものと見えざる  
terrae, visibilium omnium et invisibilium. もの全ての造り主を (われは信ず)。
- (3) [ソプラノとアルトの二重唱] [白川・福原]  
Et in unum Dominum Jesum Christum. そして 唯一の主、神のひとり子 イエス・  
Filius Dei unigenitum, et ex Patre キリストを。すべての世の前に  
natum ante omnia secula. 父より生まれしを (われは信ず)。  
Deum de Deo, lumen de lumine, 神より出し神、光より出し光、  
Deum verum de Deo vero Genitum, 真の神より出し真の神、

(注：二重線の文字囲いは、バツハがミサ典礼文に変更を加えた箇所。別掲解説をご参照ください)

- non factum consubstantialem Patri:  
per quem omnia facta sunt.  
Qui propter nos homines, et propter  
nostram salutem descendit de caelis.
- (4) [5部合唱]  
Et incarnatus est de Spiritu Sancto  
ex Maria Virgine, et homo factus est.
- (5) [4部合唱]  
Crucifixus etiam pro nobis: sub Pontio  
Pilato passus, et sepultus est.
- (6) [5部合唱と部分独唱] [津國]  
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas,  
et ascendit in coelum, sedet ad dexteram  
Dei Patris, et iterum venturus est cum gloria,  
judicare vivos, et mortuos:  
cujus regni non erit finis.
- (7) [バス独唱] [津國]  
Et in Spiritum Sanctum, Dominum  
et vivificantem, qui ex Patre Filioque  
procedit; qui cum Patre et Filio simul  
adoratur, et conglorificatur: qui locutus est  
per Prophetas.  
Et unam, sanctam, catholicam et  
apostolicam ecclesiam.
- (8) [5部合唱]  
Confiteor unum baptisma in remissionem  
peccatorum.
- (9) [5部合唱]  
Et expecto resurrectionem mortuorum,  
et vitam venturi seculi. Amen

造られずして生まれ、父と一体にして  
万物これにより造られ、  
人たるわれらのために、われらの救いの  
ために、天より降り給えり。

聖霊によりて、処女マリアより肉体を受け、  
人となり給えり。

われらのために、ポンティオ・ピラートの  
もとにて十字架につけられ、苦しみを受け  
葬られ給えり。

聖書にありしごとく、3日目に甦り給い、  
天に昇りて、主なる父の右に座し給えり。  
栄光と共に再び来たり給い、生ける者と  
死せる者を裁き給う。  
その国は終わりなかるべし。

また、主なる聖霊、いのちの与え主なるを  
(われは信ず)；父と子より出て、  
父と子とともに拝まれ、  
あがめられ、預言者によりて  
語られ給えり。  
また、唯一の聖なる、公(普遍)なる、  
使徒継承の教会を信ず。

罪の赦されんがための唯一の  
洗礼を認め、

死したる者のよみがえりと、来世の  
いのちを待ち望み奉る。アーメン

### 第Ⅲ部 Sanctus

[6部合唱]  
Sanctus, Sanctus, Sanctus  
Dominus Deus Sabaoth.  
Pleni sunt coeli et terra gloria ejus.

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな  
万軍の神なる主  
主の栄光は天と地に満ちたり。

### 第Ⅳ部 Osanna, Benedictus, Agnus Dei, Dona nobis pacem

- (1) [4部2群の二重合唱]  
Osanna in excelsis.
- (2) [テノール独唱] [北村]  
Benedictus, qui venit in nomine Domini.
- (3) [4部2群の二重合唱]  
Osanna in excelsis.
- (4) [アルト独唱] [福原]  
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,  
miserere nobis.
- (5) [4部合唱]  
Dona nobis pacem.

いと高きところに オザンナ

ほむべきかな、主のみ名によりて来るもの。

いと高きところに オザンナ

神の子羊、世の罪を除き給う主よ  
われらを憐れみ給え。

われらに平安を与え給え。

## 今、時を超えて地上の平和への祈りを

バッハ：「ロ短調ミサ曲」を歌う

Kyrie eleison 主よ憐れみ給え!

冒頭、一音の前触れもなく突如湧き上がる叫びにも似た痛悔の祈り。ソプラノ2声による相次ぐ上昇旋律によって自ずとその視線を天の高みへと導かれる我々は、瞬時にしてこの僅か4小節に深く込められたバッハの祈りへと引き入れられる。その祈りとは、全27曲に繰り広げられる真の平和をもたらすものへの賛美と感謝、そして最終曲が「Dona nobis pacem 我らに平安を与え給え」と歌う平和への祈願の、その全てである。

1829年、20歳のメンデルスゾーンによる「マタイ受難曲」の復活蘇演を契機として、死後約80年の深い眠りから覚めたバッハの宗教作品の数々であったが、その中であって「ロ短調ミサ曲」と呼ばれるこの作品については、当初から多くの議論が交わされてきた。バッハがその信仰に生きたルター正統派教会で当時用いられていたミサ曲、それはキリエとグローリアのみから成る「小ミサ曲」であった。しかしこの作品は、伝統的な中世以来のミサ通常文すべてを含む、彼の唯一の「完全ミサ曲」である。しかしこの作品の、一般のミサ曲との決定的な相違、それは「キリエ」「グローリア」「クレード」「サンクトゥス」「アニュス・デイ」の5部分から成る通常の形に対し、このミサ曲が異例の4部構成をとることである。しかも本来は許されることのない典礼文の変更を3箇所に行っている（歌詞対訳の頁の二重線枠部分）。更にこの4部全体は、本来1つの作品として構想されたものではなく、第Ⅰ部は48歳、第Ⅲ部は39歳にして、各々異なる用途をもって作曲されたものであった。ならばこの第Ⅰ、第Ⅲ部に、晩年に到って第Ⅱ、第Ⅳ部を加筆し、死の前年1749年に現在の姿を完成させた時、バッハはそこに何を意図したのであったろうか。

この問いかけに対する答え、それこそは他ならぬ今ここにある彼の、宗派を超えてミサ典礼文に託したのであろう信仰の吐露の、この真摯の響きそのものではないだろうか。更に彼が意図したのであろうこと、それはこの作品が「諸様式の百科全書」とまで言われる程の、彼が生涯を通して学びとった次の如き多彩な様式の網羅であった。

- 1) グレゴリオ聖歌を基本主題に持つ、中世の「定旋律ミサ曲」の響き。第Ⅱ部(1)、(8)。
- 2) バッハによってその技法の頂点をもたらされたフーガであるが、第Ⅰ部(3)、第Ⅱ部(1)、(8)では、16世紀ルネサンスのパレストリーナが響かせた対位法の理想としての「古様式」を見せて、過去への畏敬を表している。
- 3) 複合唱様式。ギリシャ十字型の構造を持つヴェネツィアの聖マルコ大聖堂の、その両翼に置かれた聖歌隊の交互唱に始まったとされる16世紀以来のこの様式により、バッハは、エルサレムに入るキリストを迎え「Osanna in excelsis いと高きところにオザンナ」と叫び交わす群衆の歓呼を見事に再現している。第Ⅳ部(1)。
- 4) 協奏様式。第Ⅰ部(12)などに展開される絢爛たる響き、胸躍る足取りは、バッハの同時代者で常に先進的であったイタリアのヴィヴァルディに学んだ協奏様式のものである。
- 5) カノン形式。第Ⅱ部(3)におけるバッハは、同一旋律を独唱ソプラノとアルトが寄り添うかの如くに模倣し合うこの形式によって、父なる神と子なる神との一体性を示唆しようとしている。
- 6) 18世紀前半、荘重なフーガなどへの反動として起こったイタリアの優美様式。第Ⅰ部(6)では、ロココ的な豊かな装飾が、神への賛美を歌うソプラノ独唱の旋律を甘美に飾る。
- 7) パッサカリヤ形式（後述の例曲）。

磨き抜かれた作曲技法の自在な駆使を見せて「ロ短調ミサ曲」に広がるこの広大な音の世界、これこそは正にベートーヴェンの言葉「バッハはBach（小川）ではなく大海である」を思い起こさせるものであろう。バッハは1本の小川ではなく、すべての小川が大海に注ぎ込み渾然一体となる如く、上述のすべての様式はバッハという大海に受け止められ、そこに「ロ短調ミサ曲」という果てしない海原が出現したのであった。そしてあたかも海面に照り映える太陽の光の如く、きらめく彩りや深い色調をそこに添えたのが、中世以来の音的、数的象徴手法なのであった。



それらは、歌詞の文字通りの意味を、更にはバッハの信仰の眼差しのみが見た、言葉の背後にあるものさえもくつきりと浮かび上がらせるのである。

第Ⅱ部(5)をここに例とし、自らが意図する表現を求めてバッハが見せた、作曲技法と象徴手法との見事な実際に目を向けたい。

この合唱曲は、バツ・オスティナート(執拗なバス)と呼ばれる低音主題の文字通り執拗な反復を基本原理とするパッサカリア形式によっている。ここでの低音主題は「嘆きのバス」と呼ばれる半音階的下降型の4小節で、計13回間断なく執拗に反復される。一方「crucifixus 十字架につけられ」と4声が順次歌う冒頭旋律は、あたかも十字架上で息絶えたキリストの力なくうなだれた頭を彷彿とさせる——の動きを見せる。更にこの音型は、キリストの磔刑はユダのみではなく人間すべての罪の故かと、痛悔に頭を低くするバッハ自身の描写でもあるかもしれない。

ここで目の当たりにすること、それは磔刑の酷い苦しみと、それを仰ぎ見るバッハの痛悔の情との迫真的強調をもたらし得るのは、「嘆きのバス」の13回もの執拗な反復を可能にするパッサカリア形式以外にはあり得なかったという、形式と内容との必然の関わりである。

更に驚くべきは、既存の作品の歌詞をつけ換えて他の曲に転用するパロディー手法の見せる、単なる安易な歌詞の変更などとは異なる見事な筆の跡である。バッハはこのミサ曲中の約8曲をパロディーによっているが、この合唱曲も、カンタータ第12番「泣き、嘆き、憂い、畏れよ」からの転用である。原曲を聴いて先ず気付くこと、それは「crucifixus」の合唱曲が持つ低音主題1回分の4小節の前奏を、この原曲が持たないことである。12回の反復を、前奏を加えて13回にした時バッハがそこに意図したであろうこと、それはこの数字による、キリストを敵に渡したユダの存在の暗喩ではなかったか。

また、crucifixusと歌う上昇旋律に原曲の持たぬ#を付して、増音程の緊張感を見せるのも、歌詞に促されたものであろうか。

そして目を見張らされるのが、曲尾の見事な処理である。原曲は短調で開始したそのままに、短調で終止するのであるが、転用されたこの合唱曲にあっては、ホ短調で開始する曲は、低音主題反復の最終回13回目の4小節では、「passus et sepultus est 苦しまれ、そして葬られた」を低く重く沈ませた音に託して描いた後、最終小節はト長調の主和音に導かれ、一瞬の光が差し込むのである。これこそは、直ちに続く「et resurrexit そして復活した」と歌う上昇音型の爆発的な歓喜を予感させるもの以外の何物でもない。歌詞の意味するものの適確な表現を求めて施された、パロディーにおけるバッハの緻密な筆の跡である。

紙面は尽き、自在な手法を駆使してのバッハの溢れんばかりの祈りは語り尽くせないが、印象深い音画として触れておきたいのは、あたかもあのフラ・アンジェリコの壁画「受胎告知」を思わせる第Ⅱ部(4)が、「Et incarnatus est 人体を受け」と天から地への受肉の神秘を語る時、その象徴として5声が次々と歌う下降分散和音の清澄の響きのことであり、又、3は神性の、2は人性の数象徴であることは第Ⅰ部(4)と(5)の拍子の対比に明らかであり、更に第Ⅲ部が「Sanctus 聖なるかな」と叫ぶ大きく波打つ3連符の連なりも、賛美の数象徴として意味深い。

ルター正統派の信仰に生きたバッハが、宗派を超えてカトリックのミサ典礼文に自己の祈りを託した如く、我々も宗教の相違、信仰の有無を超え、今、強く求められる地上の平和、許し合うことのみがもたらす平和への、時を超えた普遍の祈りとしてこのミサ曲を歌いたい。この2年間、指揮者によってバッハ音楽の大きさに導かれた京都混声合唱団は、バッハの音楽の力を信じ、最終曲「Dona nobis pacem 我らに平安を与え給え」までのすべてを今日、バッハに祈りを合わせ、心と声を尽くして歌いたい。

## 蔵田 裕行 *Hiroyuki Kurata* 常任指揮者

京都市立音楽短期大学卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科独唱専攻修了。オーストリア政府給費留学生としてウィーンに留学。ウィーン国立音楽大学オペラ科、リート・オラトリオ科首席卒業。最優秀賞受賞。

在欧中、ウィーンアカデミー室内合唱団員として活躍したほか、1976年ウィーン音楽祭、オーストリア初演ハイドン作曲「オルフェとエウリディーチェ」にてソリストとしてジョン・サザーランド、ニコライ・ゲグダと共演。帰国後はリサイタル、オペラ、オラトリオと多方面にわたって活躍するほか、1968年～2001年京都市立芸術大学での教育活動により数多くの優秀な人材を育成した。1996年～2000年同大学音楽学部長。

1987年「藤堂音楽褒賞」、2001年「京都市文化功労者」。

同志社女子大学嘱託講師。NHK文化センター講師。京都市立芸術大学名誉教授。関西二期会常任理事。日本シューベルト協会常任理事。京都混声合唱団常任指揮者。



### 指揮者からのメッセージ

京都楽壇の草分け的存在であった上村けい先生が創立された京都混声合唱団が、創立80周年を迎えることとなった。

京都は勿論、全国的に見ても数少ない長寿合唱団だが、その記念演奏会に、団の永年の念願であった合唱音楽の最高峰に位置するバッハの「ロ短調ミサ曲」を取り上げることとなった。団として永年の実績があるとは云え、アマチュア合唱団の宿命として、常に固定したメンバーでの積み重ねとは言い難い条件下での難曲中の難曲への挑戦は、如何にも無謀とのそしりを免れ得ないかも知れないが、今回はこの大曲に挑む団員達の情熱に賭けてみることにした。

約2年間にわたる厳しい練習を経て、今日を迎えた団員達の合唱を愛する心が、技術を超えて皆様方の琴線に触れることを心から願っている。





## 白川 深雪 Miyuki Shirakawa ソプラノ



京都市立芸術大学声楽専攻卒業、同大学院修了。音楽学部賞及び大学院賞受賞。蔵田裕行氏に師事。在学中に、飯塚新人音楽コンクール第1位及び優秀賞受賞。第4回日本シューベルト協会(J.S.G.)国際歌曲コンクール第1位、及び聴衆審査特別賞受賞。第8回日本モーツァルト音楽コンクール第2位。第1回モーツァルト大賞選考会において優秀賞受賞。第5回京都青山音楽賞受賞。'96年京都市交響楽団定期演奏会出演(指揮井上道義)。'97年、'99年モーツァルトシリーズ、大阪いずみホールにて「フィガロの結婚」ケルビーノ役を、「コシ・ファン・トゥッテ」フィオルデイリージを演じる。'99年青山音楽賞研修費用にて、ドイツ・ブレーメンへ渡欧。同年青山音楽賞研修披露演奏会リーダーイベントを開催。ブレーメン、シュタットヴァーゲにてソロリサイタル開催。その後今日までドイツ、オーストリアなどにて演奏活動を行う。その間、'01年~'03年ウイーンマイスターコースを受講。Ingeborg Wamser氏に師事。'02年 Helmut Deutsch氏の推薦により南ドイツ、パット・ウラハにおいて宮廷歌手 Inge Borkh氏のマイスターコース受講生に選ばれ、秋の音楽祭にて「フィガロの結婚」伯爵夫人、スザンナ、「仮面舞踏会」オスカーの Aria を披露。

これまでにバッハ「カンタータ51番」、ハイドン「四季」、「ミサ・ソレムニス」、ヘンデル「メサイヤ」、モーツァルト「戴冠ミサ」、ベートーベン「交響曲第9番」、マーラー「交響曲第4番」、フォーレ「レクイエム」他のソリストを務める。

ドイツでは Claus Ocker、Jeanette Scovotti、Dietrich Henschel、James Taylor、Helmut Deutsch、Inge Borkh 各氏のもと研鑽を積み、現在はウイーンの Ingeborg Wamser 氏の下で声帯マッサージを含む発声法を学ぶ。ドイツブレーメンに在住。コンサート歌手として、活躍中。

## 蔵田 みどり Midori Kurata ソプラノ



京都市立芸術大学音楽学部声楽科首席卒業、音楽学部賞受賞。在学中、榊田喜三記念奨学金受賞。第54回全日本学生音楽コンクール大阪大会第3位。第108回京都市立芸術大学音楽学部定期演奏会ソリスト。第15回京都芸術祭コンサート「世界に翔く若き音楽家たち」に出演、京都芸術祭奨励賞を受賞。

学内オペラ「魔笛」夜の女王で出演。学内リサイタル出演、卒業演奏会出演、関西音楽大学協会新人演奏会出演。

'02年、財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生としてスイスのチューリッヒ音楽大学へ留学。チューリッヒの教会にてトランペット、パイプオルガンのトリオでのコンサート開催。オスマー・ショック、F・シューベルト作品による器楽と声楽コンサート出演。チューリッヒ音楽大学野外オペレッタ、オフペンバッハ「la princesse de trbizonde」brocoli 役で出演。学内リサイタル出演。京都混声合唱団定期演奏会「祈りの夕べ」にソリストとして出演。

'06年3月5日NHK大阪ホールにおける文化庁人材育成オペラ、ブッチェニ「ジャンニ・スキッキ」にラウレッタ役で出演予定。

木川田温子、Kathrin Graf、Sylvia Geszty、Jill Feldmann、Jens Fuhr、Daniel Fueter、Hans Adlfsen、Christophe Balissat、Paul Suits、Esther de Bros 各氏に師事。

## 福原 寿美枝 Sumie Fukuhara メゾ・ソプラノ



京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。卒業時に音楽学部賞受賞。

'98年度友愛ドイツリートコンクール第2位受賞。'00年度日本音楽コンクール入選。2度のジョイントリサイタルをはじめとし、同年には初のリサイタルを開催する。

オペラは「アマールと3人の王様」の母親役でデビュー。以降「椿姫」のアンニーナ、「魔笛」の侍女Ⅲ、「コジ・ファン・トゥッテ」のドラペッラなど舞台を重ね、「カルメン」ではタイトルロールを歌い、その卓越した歌唱力と人を魅了する舞台姿で絶賛を得た。

'03年「ばらの騎士」オクタヴィアン、「05年「タンホイザー」ヴェーヌスで出演、各方面から絶賛された。また、宗教曲を得意とし、バッハ「マタイ受難曲」、「ロ短調ミサ曲」、「マニフィカート」、ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」などのソリストを務めるなど、教会音楽の分野でも活躍を重ねている。

関西二期会会員。京都音楽家クラブ、神戸フォーレ協会会員。神戸市混声合唱団団員。

北村 敏則 Toshinori Kitamura テノール



京都市立芸術大学声楽専攻卒業。同大学院修了後ウィーン留学。音楽学部賞及び大学院賞を受賞。佐々木成子、蔵田裕行、田原祥一郎、K. エクヴィルツ、故E. ヴェルバ各氏に師事。

'98年第2回 J.S.G. 国際歌曲コンクール第1位、及び聴衆審査特別賞受賞。'90年第6回ボルツァーノ（北イタリア）歌曲コンクール第1位、及びアダ・ヴェルバ賞受賞。'91年第1回青山音楽賞受賞。'95年京都市芸術新人賞受賞。'94年姫路城世界文化遺産指定記念イベント、オペラ「おなつ・清十郎」の清十郎役に抜擢されオペラデビューを果たす。

以後、中国二期会客演として「魔笛」「こうもり」、倉敷音楽祭記念オペラ「ボエム」、びわ湖市民オペラ「シンデレラ」「マルタ」「ジブシー男爵」に出演し好評を博す。ドイツ、イタリア、オーストリアでのオペラ公演の参加をはじめ、日本各地で多数のコンサートに出演。特に宗教曲には定評があり、「メサイア」「四季」「天地創造」「ミサ・ソレムニス」等、また、「ヨハネ・マタイ受難曲」のエヴァンゲリストとして高い評価を得ている。'00年7月には東京芸術劇場にて「マタイ受難曲」のエヴァンゲリストを務め、P・シュライヤーの再来と評され、熱狂的に受け入れられた。CDは日紫喜恵美とのジョイントで「モーツァルトの世界」をリリース。

近年、作曲家・平田あゆみと「うた劇場」を立ち上げ、精力的に日本語による各種声楽曲を発表し、好評を得ている。現在、京都市立芸術大学専任講師、日本シューベルト協会会員。

小玉 晃 Akira Kodama バリトン



京都市立芸術大学大学院修了後、渡奥。ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。在学中、オーストリア政府より奨学金を受ける。リート・オラトリオをW. モーア、オペラをR. ニックラー、発声を宮廷歌手M. ニコロヴァに師事。在欧中、シューベルトの歌曲集「冬の旅」などによるリサイタルの他、多数の演奏会に出演。シュトゥットガルト・バッハアカデミーに参加。バッハ演奏法を宮廷歌手W. シェーネに学び、H. リリングによるゲシュプレヘスコンツェルトにおいてソリストを務める。

バッハを始めとするバロック作品の歌唱法及び解釈をM. ファン・エグモント、リート解釈をH. ホッター、E. アメリング、E. ヘフリガー、W. ベリー、H. ドイチュ、J. デームス、A. ヤンセン他に学ぶ。

ベートーヴェン「第九」、バッハ「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」、「クリスマス・オラトリオ」、「ロ短調ミサ」、「カンタータ」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、フォーレ「レクイエム」他、ソリストを数多く務める。

'99年、5年間に渡る留学から帰国し、ブラームスの歌曲集「美しきマゲローネのロマンス」全曲による帰国記念リサイタル、イシハラホール企画で「冬の旅」によるリサイタルを開催するなど、以来特にドイツリート、宗教曲の分野で活躍。

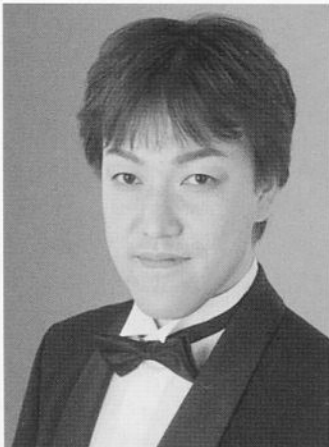
J.S.G. 国際歌曲コンクール第1位。全日本学生音楽コンクール大阪大会 大学・一般の部第1位。青山音楽賞、松方ホール音楽賞大賞、京都音楽協会賞他受賞。

川下登、植田治男、蔵田裕行の各氏に師事。

大阪音楽大学や音大付属音楽院などでドイツリートのクラスを担当。

関西二期会、日本シューベルト協会会員。大阪音楽大学、同志社女子大学講師。

津國 直樹 Naoki Tsukuni バリトン



京都市立芸術大学卒業。同大学院修了。オーストリアに留学、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。飯塚新人音楽コンクール第3位。

'97年第5回 J.S.G. 国際歌曲コンクール入選、'98年バルマドール国際歌曲コンクール第2位、友愛リートコンクール1位、文部科学大臣奨励賞、H・ヴォルフ賞、日本R・シュトラウス協会賞。日本音楽コンクール3位。その他多数入賞。'99年ウィーンにてシューベルト作曲「水車小屋の娘」のリサイタルを行う。

また、オペラでは、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」の伯爵、フランチェスコ・カヴァッリ作曲「オルマンド」のアミーダ、「七つの大罪」、「森は生きている」、「メリー・ウイダー」などに出演。オラトリオでは、モーツァルト作曲「レクイエム」、ヘンデル作曲「メサイア」、バッハ作曲「クリスマス・オラトリオ」、フォーレ作曲「レクイエム」、ハイドン作曲「チェチーリアミサ」などのバスソリストとして出演。黒岩典枝、蔵田裕行、ワルター・モーアの各氏に師事。

現在、神戸市混声合唱団団員。関西二期会会員。

## 京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

1956年創立。日本唯一の自治体直営オーケストラとして、「市民文化の形成と青少年の情操の向上、住民の福利の増進に資する」という理念に基づき、たゆみない成長、発展を遂げてきた。1995年秋には、本拠地を京都会館から、最適の環境と最新の音響設備に恵まれた「京都コンサートホール」に移して、一層飛躍する環境を整えた。

2001年4月からは、第11代常任指揮者として大友直人を、首席客演指揮者として岩城宏之を迎え、新世紀に更なる飛躍を図っている。

2003年から、西日本で初めての子どもの対象とした定期的な演奏会「こどものためのコンサート」に新たに取り組み、大好評を博す。2004年からは、毎年地域の文化会館等を巡回演奏する「みんなのコンサート」にテーマ性を持たせてリニューアルするなど、より幅広い聴衆へ音楽の素晴らしさを伝えていくことに努め、2006年の創立50周年に向けて、ますます充実した活動を展開している。



### 宮北 昌子 Shoko Miyakita ピアニスト



京都市立堀川高校音楽科（現京都市立音楽高校）を経て、京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専修卒業。関西モーツァルト協会例会「五人展」、サロンコンサート等に出演。ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽院夏期アカデミーにてセルジオ・ペルティカローリ教授の講座を修了。修了演奏会に出演。ピアノを山田淳子、故岩淵洋子、マックスエッガーの各氏に、チェンバロを春山操氏に師事。'88年より京都混声合唱団伴奏ピアニスト。

### 大谷 圭介 Keisuke Otani ヴォイス・トレーナー



京都教育大学教育学部数学科卒業。京都市立芸術大学大学院修了。声楽を饗場知昭、蔵田裕行、GTadeo、田中勉の各氏に師事。

第39回なにわ芸術祭新人賞、大阪府知事賞受賞。第7回高槻音楽コンクールにおいて第1位、摂津音楽祭リトル・カメラアコンクール、奨励賞、リトル・カメラア賞受賞。

オペラには「フィガロの結婚」「魔笛」「コシ・ファン・トゥッテ」「椿姫」他、多数出演。

フォーレ、デュルフレ「レクイエム」、バッハ「クリスマス・オラトリオ」「第九」のバトンソロ、'00年、京都市・西安市友好都市提携25周年記念訪問に音楽交流団として参加、現地にて訪問演奏会を行う。

合唱指導経験も豊富で、アマチュア合唱団はもちろん、堺シティ・オペラ本公演「ドン・カルロ」「ファルスタッフ」ではコーラス・マスターとして公演を支えた。

関西二期会会員、島本混声合唱団指揮者、「MBS 一万人の第九」指導者。男声合唱団 Des Eleisons 指揮者。京都混声合唱団は'98よりヴォイストレーナーとして指導にあたっている。

### 藤 美千代 Michiyo Fuji ヴォイス・トレーナー



京都市立芸術大学音楽学部声楽専修卒業。第9回PIA.JAPAN音楽コンクールドイツリート部門銀賞受賞。歌曲を中心に演奏活動を行う。

オペラでは「魔笛」（浜松市民オペラ協会主催・パバゲーナ役）、「ジプシー男爵」（びわ湖ホール）等出演。関西二期会オペラスタジオ第38期修了。

これまでに、山田実、故手島孝教、松下悦子、浅井順子の各氏に師事。

現在は蔵田裕行氏の下で研鑽を積む。

京都バッハ合唱団団員。



# 京都混声合唱団80年の歩み

★文中、諸先生・先輩方の敬称は略させていただきます。

☆文中、作曲者名・曲目などは当時のプログラムなどの記載とおりとしました。

## 1926年(大正15年・昭和元年)～1944年(昭和19年)

1926年、京都在住の同声会(東京音楽学校・現東京芸術大学音楽学部同窓会)メンバーの間に、混声合唱団結成の機運が起こり、稲畑登美子(同校第一回卒業)をはじめ吉田恒三、柳兼子、近藤義次、竹内禎子、上村いさお(けい)、加藤榮(千恵)などを中心に結成され、それに合唱を愛する社会人や学生が加わって活動がはじまりました。

第1回の発表会は、1927年11月19日に同志社講堂において、指揮：森本芳雄、ピアノ伴奏：船阪すま子によって、モーツァルト「第十二弥撒から」主よ御恵みを、メンデルスゾーン、シューベルト、ブラームスなどの合唱曲が演奏されました。(写真=第1回発表会)

当時の資料によると、京都音楽協会後援による定期演奏会、大阪朝日新聞社社会事業団主催による「合唱の夕」(大阪中之島公会堂)をはじめ、同社主催によるいくつもの記念音楽祭などに出演しました。またNHK京都放送局でのラジオ出演もしています。指揮者には前記森本芳雄のほかエフゲン・クレーン、土方(西邨)辰三郎などの名が見られます。

1936年に起こった「2.26事件」を契機として、わが国の政治体制は一段と軍事色を強めていきますが、音楽をはじめ文化活動の軽視や締めつけも厳しさを加えてきました。こうした中で、エフゲン・クレーン、近藤義次、森本芳雄、竹内平吉、吉田恒三などの指揮の下で、ベエトウベン「楽劇 橄欖山終曲 ハレルヤ」、ケルビーニ「レクイエム・ハ短調よりイントロイス・神の怒りの日」、信時潔「送別の歌」「いろは歌」「あかがり」、ドボルジャック「スタバト マトリ」より、ムソルグスキー「ボリスゴドノフより・巡礼の歌」などが演奏会で取りあげられています。

アジアでは日本と中国とのいわゆる日華事変が、ヨーロッパではドイツ・ナチス政権による東欧侵略外交が、全世界にまたがる第二次世界大戦へと拡大していきました。こうした状況の中で、音楽活動の多くが敵国に組みするものとして排斥されていきましたが、合唱を愛し続ける人たちは、いろいろな方法で音楽活動の継続を図りました。1943年、京都の合唱界は「京都合唱報国団」という名前のもと、同志社栄光館において演奏会を開きました。

曲目は、信時潔「海道東征」、ベートーベン「荘嚴弥撒曲・ニ長調・作品123」、指揮は朝比奈隆、パイプオルガン・中瀬和利、ソリストは、加藤千恵、加藤貞、木村四郎、藤堂顕一郎でした。

戦局はますます厳しくなり、メンバーも日を追って少なくなり、自然休団の止むなきに至りました。



## 1945年(昭和20年)～1951年(昭和26年)

1945年8月に終戦を迎えましたが、京都の町には街灯も灯らず、市内電車も間遠に動く程度で、楽譜を印刷する紙の入手さえ困難でした。こうした混沌の中で、団員の広瀬茂は、昼間の勤務の後、毎夜のように自転車に乗って団員の消息を尋ね回り、一人またひとりと呼びかけて人数を集め、この年の12月には水谷央の指揮で京都の街に歌声を響かせました。

翌1946年には、早くも「第一回関西合唱コンクール」が大阪朝日会館で開催され、65名のメンバーが川端義雄の指揮により出場し、混声の部で優勝しました。

1947年、戦後初めての演奏会は、大毎会館(毎日新聞京都支局3階ホール)において、川端義雄の指揮の下で開催しました。また、この年に人文学園合唱団、京都市民合唱団と合同し、新生京都混声合唱団として、その後の活躍の基盤を確立しました。

関西の合唱界は、戦後の混乱からいち早く立ち直りを見せ、当団も関西合唱連盟の合唱祭参加(大阪朝日会館)、NHK京都でのラジオ放送出演、京都合唱連盟主催「合唱まつり」への参加(円山音楽堂、指揮・上村けい)、「芸術文化祭前夜祭」参加(公楽会館、ハイドン「天地創造」指揮・森本芳雄、真美交響楽団)、京都合唱連盟主催「パッサ二百年祭記念・マタイ伝福音書による受難曲」参加(同志社栄光館・指揮・山田和雄(一雄)・大阪放送管弦楽団)などの演奏活動を行いました。

## 1952年(昭和27年)～1963年(昭和38年)

1951年、永年にわたって当団を指導・指揮をしてきた森本芳雄が急逝したこともあって、翌52年に青山政雄を指揮者に迎えました。

戦後の経済復興も急速に回復を示し、全国の合唱活動も盛んになってきました。当団においても宗教曲のほか邦人作品を積極的に取りあげるなど意欲的な活動を展開しました。また、勤労者音楽祭、京都合唱連盟主催の合唱祭、円山音楽堂での土曜コンサートなどに出演しました。

1963年には、京都楽壇育の親ともいえる稲畑登美子の「京都文化団体懇話会受賞記念音楽会」(京都音楽協会主催)に出演し、同女史に贈る曲、花法師(近藤義次)作詞・網代栄三作曲の「交声曲 春の日のファンタジー」を演奏しました。

この期間での主たる演奏曲目には、ドヴォルザーク「スタバト マーテル」、ピゼッティ「レクイエム」、モーツァルト「ミサ曲 ハ短調」、フォーレ「レクイエム」、清水脩「笛吹き八郎が亀を助けた話」「鼻長き僧の話」、松本民三「切支丹物語」、前田裕志(団員)「鴉・帆・ランプ」、大中恩「月と良寛」、ドビシー「シャルル トルレアンの三つのシャンソン」、ヴェルディー

「スタバト マーテル」などがあります。

### 1964年(昭和39年)～1990年(平成2年)

1952年から当団を指揮・指導をしてきた青山政雄が京都の地を離れることとなり、しばらくは団員の牛丸紘一や明石好中などの指揮によって演奏活動を続けておりましたが、1966年には元団員でもあった伊吹新一を指揮者に迎えました。この時期の演奏曲目は、Mendelssohn「Drei Motetten」、モーツァルト「Missa C-dur(戴冠ミサ)」、Victoriaほか「16世紀の教会音楽」、Bruch「Schon Ellen」、Hydn「Missa solemnis B-dur」などでした。

1970年、京都に戻ってきていた青山政雄を再び指揮者に迎え、1975年には、団創立50周年記念演奏会を開催いたしました。小島憲之作詞・青山政雄作曲「祝典歌」、モーツァルト「レクイエム」、当団の記念演奏会のために青木望が編曲した「ロシア民謡集」が上演されました。このロシア民謡は、テイチクレコードから4チャンネルステレオLPとして市販されました。また、この時に出演頂いた京都市交響楽団とは、その後同交響楽団の演奏会合唱パートとして、しばしば出演する機会を得てきました。

1982年には、京都音楽家クラブの藤堂顕一郎音楽褒賞基金から、第一回の表彰(団体)の栄に浴しました。なお、この時の表彰(個人)は、加藤テイ、上村けい、蔵田春平、梅田しづの四氏でした。1985年の創立60周年記念演奏会は、小泉和裕指揮により、メンデルスゾーン「オラトリオ エリア」を上演すると共に、団員の金子清明編纂による「京都混声合唱団60年史」を上製本として刊行しました。

### 1991年(平成3年)～

1991年に、蔵田裕行を常任指揮者に迎え、翌92年には、ハイドン「天地創造」を上演しました。1995年は団創立70周年に当たりましたが、同年に開館した京都コンサートホール・大ホールでの開催を計画していたこともあって、翌96年にずれ込みましたが、ハイドンの「四季」を上演しました。また、同年には当団のこうした永年の合唱活動に対して、京都新聞社より同社五大賞の一つである社会賞を受賞いたしました。2000年にはロッシェニ「小ミサ曲」、2002年にはベートーヴェン「荘厳ミサ曲」(客演指揮:阪哲朗)を上演しました。

下表に、1975年以降の演奏会の中から、紙面の都合で幾つかの演奏会記録を抜粋しています。

こうした宗教曲だけでなく、邦人オリジナル曲をはじめ関西初演の曲も数多く取りあげ、また国内他府県合唱団や海外合唱団との交歓演奏会も行ってきました。

### 1975年(昭和50年)以降の主要演奏会記録の抜粋

年月日	演奏会名	曲目	指揮	独唱者	会場
1975(昭50)10.10	50周年記念演奏会	青山政雄<祝典歌> モーツァルト<レクイエム> 青木望編曲<ロシア民謡>	青山政雄	田中千恵子 田原祥一郎 森池日佐子 木川田 誠 山本 禎二	京都会館第1ホール
1980(昭55)5.28	定期演奏会	青山政雄<鑑真和上東征賦> デュルフレク<レクイエム> 青木望編曲<ラテン>	青山政雄	志村年子 久岡昇 山本禎二	京都会館第1ホール
1982(昭57)11.10	定期演奏会	モーツァルト<レクイエム> 団 伊玖磨<筑後川> ブラームス<運命の歌>	フルヴィオ ヴェルニツツイ	田中千恵子 佐藤時彦 森池日佐子 蔵田裕行	京都会館第1ホール
1985(昭60)11.7	60周年記念演奏会	メンデルスゾーン<オラトリオ エリア>	小泉和裕	常森寿子 鈴木寛一 西 明美 岡村喬生	京都会館第1ホール
1988(昭63)4.25	定期演奏会	バッハ<マタイ受難曲>	青山政雄	伊藤 叔 木村俊光 伊原直子 牧川修一 鈴木寛一 淵脇和範	京都会館第1ホール
1992(平4)7.2	定期演奏会	ハイドン<オラトリオ天地創造>	蔵田裕行	常森寿子 日紫喜恵美 北村敏則 宇野徹哉 木川田澄	京都会館第1ホール
1996(平8)4.29	70周年記念演奏会	ハイドン<オラトリオ四季>	蔵田裕行	白川深雪 北村敏則 宇野徹哉	京都コンサートホール
1998(平10)5.15	定期演奏会	ロッシェニ<小ミサソレムニス>	蔵田裕行	安保淑子 三井ツヤ子 木川田澄 小餅谷哲男	京都コンサートホール
2000(平12)9.2	75周年記念演奏会	ヘンデル<メサイア>	蔵田裕行	日紫喜恵美 福原寿美枝 北村敏則 灘井 誠	京都コンサートホール
2002(平14)8.31	特別演奏会	ベートーヴェン<荘厳ミサ>	阪 哲朗	菅三英子 福原寿美枝 北村敏則 宇野徹哉	京都コンサートホール

その他詳しい演奏会記録などは当団ホームページ< <http://kyou-kon.jp/> >に掲載しております。

祝！京都混声合唱団創立80周年

兵庫県たつの市龍野町富永100の3  
**ヒガシマル醤油株式会社**

 **京都中央信用金庫**


理事長 布垣 豊

本店/京都市下京区四条通烏丸西入ル  
☎075(223)2525

**株式会社 日動商会**

代表取締役会長 檜山 正男

〒615-0022 京都市右京区西院平町37番地2  
TEL (075) 321-0666 携帯: 090 2593 6888

 土質及び地質調査・建設コンサルタント  
**株式会社 キンキ地質センター**

〒612-8236  
京都市伏見区横大路下三栖里ノ内33番地3  
TEL. 075-611-5281 FAX. 075-611-5285

創業 150年  
**宮崎家具**

(075) 231-6337

地質・土質・地下水調査・さく井工事  
**株式会社 総合技術コンサルタント**

京都市南区吉祥院前河原町1  
電話 (075) 312-0653

湯けむりのなかに、渡月橋が見える

**嵐山温泉**

(075) 872-1126

創業明治36年 京都府優秀技能賞受賞  
さく井 ポンプ工事 設計施工

**株式会社 甲田工業所**

〒612-0864 京都市伏見区紺屋町191  
TEL (075) 601-1039番(代)

**大原温泉 紫の湯**  
ゆかり

大原の里 (075) 744-2917  
芹生 744-2301  
大原山荘 744-2227

**萬樹園 宮地宏至**

京都市中京区三条通堀川西入る  
電話 (075) 841-0349

甘菓の老舗  
 **林万昌堂**

本店 京都四條新京極西 電話(075)221-0258  
二商店・高島屋店・大丸店・JR京都伊勢丹店

**K-マシン株式会社**

〒601-8318 京都市南区吉祥院三の宮町70  
TEL.075(672)4554(代) FAX.075(691)5004  
<http://www.kmcn.co.jp/>

代表取締役 菊井 健作

E-mail: kikui@kmcn.co.jp

**株式会社 サンユープラント**

温浴施設 設計・施工


〒607-8133 京都市山科区大塚中溝町36-1  
TEL(075)-501-2922 FAX(075)501-2924

**工藝 ふるや**


帯の加工

〒601-1121 京都市左京区静市市原247  
Tel・Fax (075)741-1127


**出春 尚志**


 **小山 弘**  
Dr. Hiroshi Koyama

京都市右京区鳴滝中道町17-2

 御菓子所  
**龜末 廣**


電話・FAX (075) 221-5110  
中京区姉小路烏丸東入る

 あんみつなら  
**月ヶ瀬**

 **牛丸 紘一・玲子**

小田原市飯田岡205  
京都市上京区上立売通室町西入17

   
電岡市湯ノ花温泉郷  
Tel. 0771-22-7575 Fax. 0771-22-7577


 音楽企画・制作  
**アマデウス音楽研究所**  
代表 明石 好中

〒615-0042 京都市右京区西院東中水町7-412  
TEL: 075-314-1928 FAX: 075-314-0615

牧ヘルスケアグループ  
**医療法人 清翠会**

理事 牧 吉子

〒535-0022 大阪市旭区新森7丁目10番28号  
Tel: (06)6953-0190 <http://www.maki-group.jp/>

 **きむら歯科**  
Kimura Dental Clinic

院長 木村 計司

〒615-8063 京都市西京区下津林六反田1-27  
TEL/FAX 075-383-0118

**和菓子教室 秋 桜**  
**洋菓子教室 COSMOS**

<http://www16.ocn.ne.jp/~cosmoskn/>



## 出演者

### 京都混声合唱団

ソプラノ I	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
ソプラノ II	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
アルト I	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
アルト II	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
テノール I	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
テノール II	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
バス I	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
バス II	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠

### 京都市交響楽団

コンサートマスター	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
第1ヴァイオリン	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
第2ヴァイオリン	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
ヴィオラ	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
チェロ	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
コントラバス	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
フルート	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
オーボエ	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
ファゴット	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
ホルン	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
トランペット	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
ティンパニ	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠
オルガン	山本 悠	山本 悠	山本 悠	山本 悠

## 合唱団員募集中!!

オペラ合唱曲などを  
予定しています。

★ 年齢や経験の有無は問いません。

☆ 練習日 毎週金曜日 19時～21時15分

☆ 練習会場 京都府薬剤師会館2階ホール(東大路通五条上る東側)

※特別練習日:日曜日 昼間に随時練習することがあります。

入団費:1,000円 月額団費:3,500円(学生:1,500円)

練習見学歓迎します。 お問い合わせはこちら

電話:090-1226-1717(京都混声合唱団)

Eメール:info@kyou-kon.jp ホームページ <http://kyou-kon.jp/>

一、本會之宗旨  
 二、本會之組織  
 三、本會之業務  
 四、本會之經費  
 五、本會之附屬機構  
 六、本會之其他事項



藝術文化振興基金助成事業

本會之宗旨在於促進藝術文化之發展，並協助各項藝術文化事業之進行。本會之組織由董事會及秘書處組成。本會之業務包括：(一) 籌募經費；(二) 辦理各項藝術文化活動；(三) 提供各項藝術文化服務。本會之經費來源包括：(一) 政府撥款；(二) 社會人士捐助；(三) 本會自行籌募。本會之附屬機構包括：(一) 藝術文化研究中心；(二) 藝術文化推廣中心。本會之其他事項包括：(一) 本會之章程；(二) 本會之報告書；(三) 本會之其他重要文件。